

かな部

中川抱月

本年開催の水明書展は残念ながら中止となりました。条幅は、書展作品の登龍門です。依って毎月の出品も勉強の為に行ってください。

書は自然の流れや余白が大事です。かなは文字の変換(変体)がな・漢字を使用)が自在に出来、連綿線を用いて行に流れを出し潤渇の変化や余白を活かすという要点を会得しましょう。作品づくりでお手本に頼っている人は、それを参考にしながら来年度の書展に向けて試行錯誤を重ねて研鑽しあいましょう。

かな部 条幅課題

A 入日さす峰の浮雲たな引きて

はるかにかへる鳥の一声

(順徳院)

B 濃き墨のかわきやすさよ青嵐

(橋本多佳子)

・入日の残光が照らしている峰に浮雲がたなびいて、折から、はるかの際に帰ってゆく鳥が、一声高く鳴いて飛び過ぎていったことだ。
・あたり一面濃い緑である。書をしたためようと墨をする。が、日中のさわやかな風がすぐ墨を乾かしてしまうのである。

(しめきり)……………六月二十二日)

◎条幅出品券を作品の右下へ必ず貼付すること。

なお、作品の裏右下に段位、氏名を忘れず記入のこと。

※五段以上の方はA・Bの両方向同時に出品できます。

※二点出品の場合、出品券の下にA・Bを明記のこと。

(選評)

師範・準師範の部

華風君 左右が呼応し滑らかな連筆に品位を感じる。印の位置も佳。

美映君 文字や連綿に古筆の特徴が生かされ潤渇も良い。「理」は一考。

穂波君 春の景色が漂う様で、力まずに字間の変化もよく考えた作。

紫煌君 穂先の利いた線でリズム感あり。今後は渴筆と筆の開閉の研究を……。

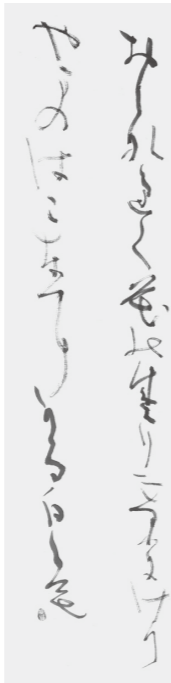
栖麗君 真面目で技巧に走らず素直な筆の動きに惹かれる。少し行の揺らしも必要。

(助教以下の部)



穴田小糸

温かみのある確かな線質と間の取り方が上手い。「月」は少し上から。



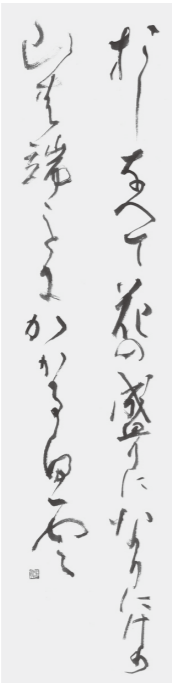
冬廣紫貴

文字の組み合わせや行の揺らし方申し分ない。妙趣に富んだ作。



永木美由紀

単体作品で気骨が通って線質が冴えている。素晴らしい。



土田芳川

味のある線質は熟練の証。筆力ある転折のリズムは見応えあり。

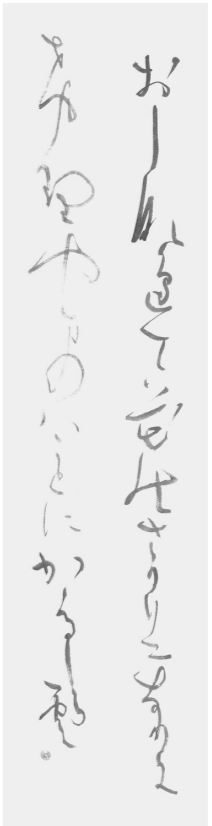


谷口誠

大胆な筆致で懐が大きな作。渴筆部分を少し詰めバランスよく。



仲村華風



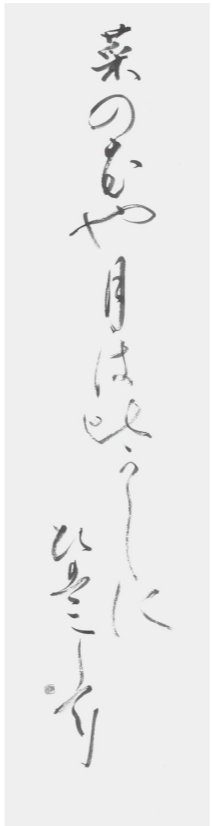
小塩美映



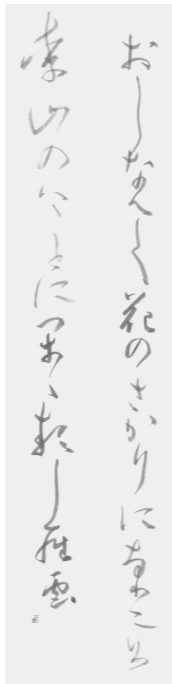
竹内穂波



山口紫煌

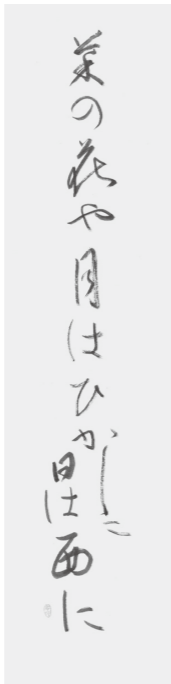


松本栖麗



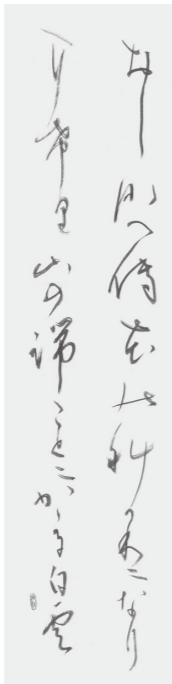
川嶋冷子

穏やかで落ち着きあり。遅速をつけて行の動きを出すこと。



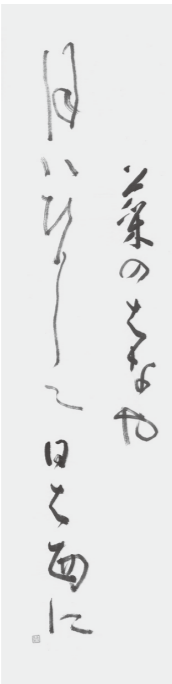
後藤幸子

派手さは無いが、しっかり筆が立ち字間の変化も良。「ひがしに」太細を。



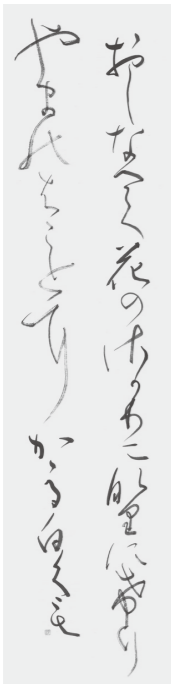
加川敏江

シャープな線質が持ち味。リズムもよい。縦線の長さに変化を。



種村みや子

左右のバランスよく柔軟な筆捌き。「可」は確実に回す。



西川順造

気宇の大きさを感じる。運筆をゆつくりし線に太細をつける。